



# かみやま

学校教育目標

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>



## 本当の幸いとはなんだろう

副校長 堂野 久美子

「本当の幸いとは一体なんだろう。」

これは私の好きな宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』の一節です。この問いがふと思い起こされる作品展を見に行きました。

先日、上山小学校の6年生とブラジルのサン・マッセリーノ小中学校の子どもたちの作品展がみどりアートパーク・ギャラリーで行われました。「わたしの・ぼくのしあわせ」をテーマに2つの同じ地球に生きる子どもたちが、お互いを思い浮かべながら自分の幸せについて考え、絵に表した作品展です。会場には色鮮やかに描かれた上山小学校の子どもたちとブラジルの子どもたちの絵が壁面いっぱい展示されていました。

子どもたちの絵にはいつも感動と希望をもらいます。のびのびと自由に描く様子が伝わってくるからです。校内に掲示されている子どもたちの作品を見ながら、その創造力には驚かされます。

さて、上山小学校の六年生とブラジルの子どもたちの描いた幸せはなんなのでしょう。

自分が大好きなスポーツをする幸せ。家族と笑い合っている食事をする幸せ。青い空に虹がかかる風景。中にはベッドにごろんと寝転ぶ幸せやゲーム機を画用紙いっぱい描いている作品もありました。思わず笑みがこぼれます。

「同じ空の下、国のちがいはあっても、望む幸せはみんな同じなんだ。」

そんなことを子どもたちはこの活動を通して感じとってくれたのではないかと、思います。



一方、世界の情勢は刻々と変化しています。ウクライナやパレスチナではいまだに爆撃で家族を失い、住む家を追われ、寒空の中テントで暮らす人々がたくさんいます。これらの人々の映像が流れるたびに、平和の尊さや命の重みを痛感します。

「本当の幸いとは一体なんだろう」と考えるとき、住む家があり、目の前に家族や友人がいて語り合えること、そして子どもたちがのびのびと絵を描いたり、スポーツをしたり、遊んだりできる環境があること、この日常こそが幸せなのだと感じます。京都の龍安寺にある有名な蹲（つくばい）には「吾唯足るを知る」という禅語が刻まれています。「知足（ちそく）」ともいわれるこの言葉の意味は「自分は今満ち足りていることを知る」という意味です。私たちはつい、日常の平和のありがたさを忘れて、「もっと」を求めがちです。しかし、今の平和な日常は当たり前ではありません。満ち足りている今を知って感謝しながら、お互いが思いやりをもち、世界の幸せをみんなで願うことが世界平和につながるのかもしれない。

2月には衆議院議員選挙が行われます。選挙権をもつのが18歳になった今、6年生はあと6年で国の行く末を考え、投票する権利を得ます。自分たちの幸せとは何か、そして、この世界、この国、この社会の一員として自分に何ができるのか。そういった社会の形成者として子どもたちが考え、成長していくことを学校は全力で応援していきたいと、思います。

世界が平和でありますように。